

# 流れ藻観測速報

鹿児島大学水産学部水圏科学分野  
20260322

観測期間: 2026年3月20日~21日

観測船: 南星丸

観測海域: 北部薩南海域

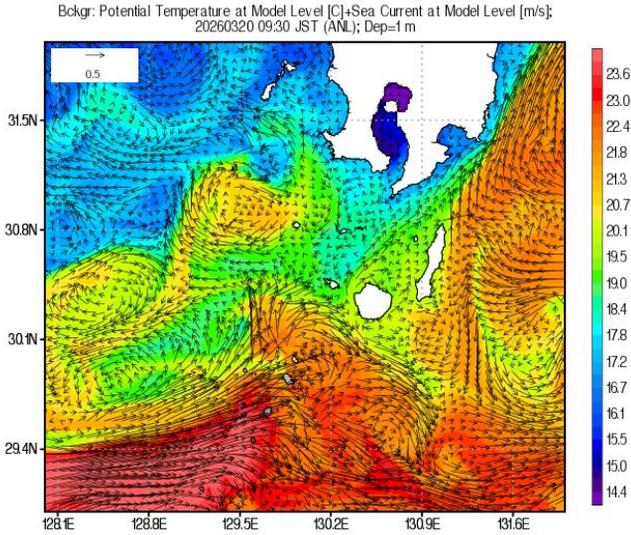


図1. 鹿児島大学工学部によって運用されている高分解能海洋モデル(DR\_E)における流れ(矢印)および海面水温(赤~紫)の3月20日の結果(ホームページより引用).

## 解説

鹿児島大学水産学部では、薩南海域へ来遊する流れ藻の漂流予測を目指した研究を行っている。モジャコ漁の漁期前・漁期中において、薩南海域に来遊する流れ藻の情報を漁業者に提供するため、鹿児島大学練習船南星丸を使って、北部薩南海域(鹿児島湾口部)の流れ藻観測を3月20日~3月21日に実施した。

観測期間中の本海域では黒潮は奄美群島西岸沖を北東方向へ流れつつ、トカラ海峡付近において蛇行している様子が認められた。また、屋久島南方には高水温域が分布しており、黒潮に伴う暖水の薩南海域への流入が示唆された。さらに、屋久島西方から北西方にかけて、暖水と周囲の低水温域との間に強いフロントが見られ、その境界に沿って流向が変化し渦構造が形成されていた。

北部薩南海域において流れ藻観測を行ったところ、20日の観測において流れ藻が発見された(下図黒点部分)。個々の流れ藻は $1 \times 1$  m<sup>2</sup>程度の小型のものであったが、硫黄島の西方や北方において、狭い範囲に複数の流れ藻が集積していることが確認された。一方、21日においては、同様の地点においても流れ藻は確認されなかった。

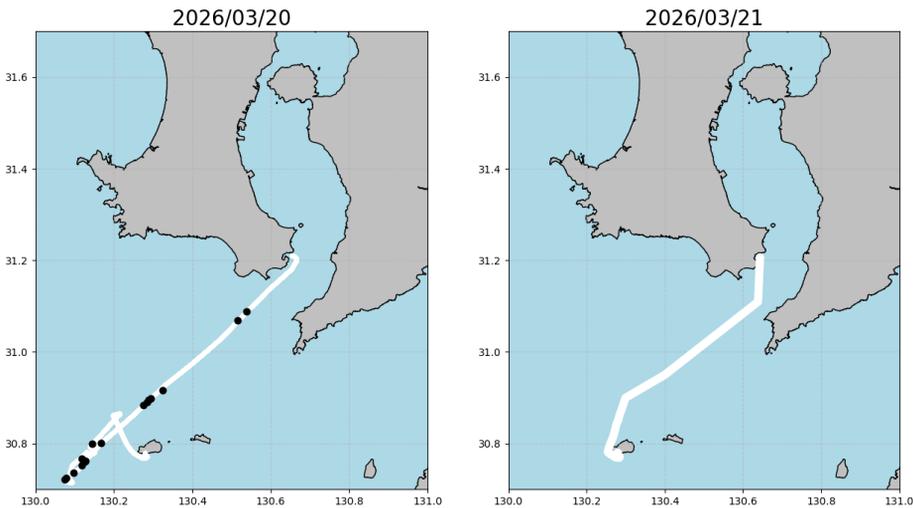


図2. 鹿児島大学練習船南星丸による流れ藻観測結果。黒点部分にて、流れ藻が発見された。

- 航路
- 流れ藻が発見された地点